

ヨハネによる福音書20章19-23節 「平安あれ」

1A 週の初めの夕方 19

1B 数々の復活の証言

2B 恐れて閉じこもる弟子たち

2A 真ん中に立たれるイエス 20

1B 復活の体

2B 「平安があるように」

1C 平和の君

2C 和解の血潮

3B 奪われない喜び

3A 平和の福音の使者 21

4A 聖霊の吹きかけ 22-23

1B 神の命の息吹 22

2B 罪の赦しの権威 23

本文

ヨハネによる福音書20章を開いてください。今朝は、20章19節から23節をじっくりと見ていきたいと思います。「19 その日、すなわち週の初めの日の夕方、弟子たちがいたところでは、ユダヤ人を恐れて戸に鍵がかけられていた。すると、イエスが来て彼らの真ん中に立ち、こう言われた。「平安があなたがたにあるように。」20 こう言って、イエスは手と脇腹を彼らに示された。弟子たちは主を見て喜んだ。21 イエスは再び彼らに言われた。「平安があなたがたにあるように。父がわたしを遣わされたように、わたしもあなたがたを遣わします。」22 こう言ってから、彼らに息を吹きかけて言われた。「聖霊を受けなさい。23 あなたがたがだれかの罪を赦すなら、その人の罪は赦されます。赦さずに残すなら、そのまま残ります。」」

一昨日、ある方がユーチューブ動画で、とても悲しいニュースを伝えていました。「今日は世界で最も有名な方が死んだ日です。とても悲しい」と。初め一瞬、またコロナウィルスで死亡した有名人でもいたのかな？と思いました。ところが、「とても悲しく、とても喜ばしい日です。」と続くのです。死んだのだから悲しい日でしょう？でも、なんでそれが「とても喜ばしい日」なのだろうと思いました？ずいぶん、人々から憎まれていたのかな、なんて思いました。(笑)こんな意味深なニュースをユーチューブ動画で配信したのは、93歳の牧師さんだったのです。¹この方は、死なれました。十字架という極刑によって、むごい形で死にました。大変、悲しいです。しかし、何にも代えがたい喜びへと変えられました。三日目に、墓の中からよみがえったのです。朽ちないからだでよみがえっ

¹ <https://youtu.be/SJBkqjYaH68>

たので、今も死ぬことがなく、生きておられるのです。イエス様が生きておられることを、お祝いするのが私たちキリスト者であり、世界中で、たった今、20億人を越える人々がこの方のよみがえりをお祝いしています。

1A 週の初めの夕方 19

1B 数々の復活の証言

今、読みました箇所には、「**週の初めの日の夕方**」とあります。週の初めの日、すなわち日曜日です。この特別な日は、夜明けから夕方に至るまで、とんでもない話が次々とイエス様の弟子たちの耳に入ってきました。イエス様が、十字架に付けられたものの午後3時に息を引き取られ、墓に葬られました。ユダヤ人の当時の墓は、岩を彫って、その穴の中に埋葬するものです。一年ぐらい経った後に白骨を集めて、それを骨壺に入れることをしていました。その穴は丸形に切られた石を転がして閉じます。

イエス様に付いていった女たちが、そのご遺体の腐敗臭を打ち消すための香料を携えてきました。その中で、マグダラ出身のマリアがいました。彼女がいち早く、墓にまでやってきました。するとなんと、石が転がしてあったのです。彼女は、すぐに弟子たちのところにそのことを伝えに行きました。ペテロとヨハネが言ってみると、なんとそこに確かにイエス様の体がないのです。くるまっていた布はそのまま置かれているのですが、忽然と消えていたのです。

マグダラのマリアは、その園で泣いていました。そこで、「なぜ泣いているのですか？」と声を誰かがかけました。彼女は園の番人だと思い、「あなたが、あの方を運び去ったのですか？」と尋ねます。彼は声をかけます、「マリア」。そう、イエス様だったのです！彼女はしがみつきました。でも、イエス様は、「わたしの兄弟たちのところに行って、伝えに行きなさい。」とされました。マグダラのマリアが、イエス様の復活を見た、初めの証人となります。

他の女たちも、後から墓に到着しました。すると、空の墓のところに天使がいました。「ここにはおられません。よみがえられたのです。」と言いました。気が動転しましたが、なんとイエス様が女たちに会ったのです。

そして二人の弟子がいて、エルサレムから離れて、エマオという村に向かっていました。女たちの話はたわごとのように聞こえていたのです。ところが、そこに誰かが一緒に歩いていました。「何を語っているのですか？」と尋ねるので、ナザレ人イエスのことだと答えて、この方が殺されてしまったこと、葬られて三日になるが、女たちがイエスは生きていと天使に告げられたと言うことも、話します。それでこの人は、聖書全体からキリストが苦しみを受けて、それから天に上げられるとあるではないですか、と説明します。それで宿に泊まって食事を一緒にとります。その人がパンを裂いた時に、ああ！イエス様だ！と分かりました。けれども、その時に姿を消したのです。

急いでエルサレムに戻ると、なんとペテロもすでに復活のイエスに出会ったというのです。そして自分たちがイエス様に会ったことを話しました。次々の、イエスが生きているという話が入って来て、気が動転していたに違いありません。

2B 恐れて閉じこもる弟子たち

それで今、読んだ箇所です。「弟子たちがいたところでは、ユダヤ人を恐れて戸に鍵がかけられていた。」とあります。彼らの師匠であるイエス様は、ユダヤ人宗教指導者に憎まれていました。パリサイ派の人たちからは、安息日を違反しているとして、解釈の違いで憎しみを買いました。サドカイ派という人たちからは、イエス様のほうにユダヤ人民衆が心が向いていたので、このままだとローマ当局に目を付けられて、潰されてしまうかもしれない。自分たちの保障されている地位もなくなってしまう、だからイエスに死んでもらおう、と考えたのです。

それで十字架で死なれたのですが、復活の噂が広がっています。元々、墓にはローマの番兵がいたのです。ところが大地震が起こって、天使が石をわきに転がしました。番兵は怖ろしくなって、倒れて死人のようになってしまいました。このことを、番兵は祭司長たちに伝えにいったのです。それで、「多額の金を与えて、『弟子たちが夜やって来て、われわれが眠っている間にイエスを盗んでいった。』と言いなさい。(マタ 28:13)」ということになりました。死体を盗んだ弟子たち、という濡れ衣です。それで、彼らはユダヤ人たちを恐れて、戸に鍵をかけていたのです。

恐れているから、戸を閉じているって、何か身に覚えありますね。そうです、コロナ感染のために日本、いや世界の人々が恐れて、家に閉じこもっています。もちろん、感染が広がらないために家にいることは今、とても必要なことです。けれども、物理的に家に閉じこもっても、人の心に植え付けられた恐れは、なかなか取り除くことはできませんね。

2A 真ん中に立たれるイエス 20

「すると、イエスが来て彼らの真ん中に立ち、こう言われた。」そうです、イエス様は私たちの恐れの中に来てくださいます！

1B 復活の体

主が身体をもってよみがえられましたが、その体は今の、私たちの体とは異なります。物理的な障壁を越えることはできます。ある時に消えて、またある時に現れることができます。けれども、その体は列記とした体であり、魚もパンも食べることができます。その手や足は確かにあって、弟子たちはイエス様に触れて、他の肉体と同じようであることを確認しているのです。

復活というのは、こういった希望なのです。それは、私たちの物理的な限界を越えます。目に見える限界を超えています。しかし、それは今、ここで目に見えているものが確実にあるように、確実に

であり、目に見えるものなのです。ペテロとヨハネは、後に足なえの男を、イエス様の名によって立ち上がらせました。それで民を教えているのにいらだったユダヤ当局は二人を捕えました。そしてユダヤ人議会の前に連れて来ましたが、ペテロは大胆にこう宣言しました。「使徒 4:10 この人が治ってあなたがたの前に立っているのは、あなたがたが十字架につけ、神が死者の中からよみがえらせたナザレ人イエス・キリストの名によることです。」イエスの甦りによって、目の前に癒された人が立っているのです。イエス様は目に見えなくとも、その立ち上がったということによって、はっきりと現実のものとして確認できたのです。

主イエスは今も生きています。そして、よみがえられたイエスを信じる者たちを通して、はっきりと生きておられることが証言されているのです。

2B 「平安があるように」

そして、「**平安があなたがたにあるように。**」と言われました。そうです、よみがえられた主は、私たちが恐れの中にあっても、思いをはるかに超えた平安で満たしてください。「ピリ 4:6-7 何も思い煩わないで、あらゆる場合に、感謝をもってささげる祈りと願いによって、あなたがたの願い事を神に知っていただきなさい。そうすれば、すべての理解を超えた神の平安が、あなたがたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくれます。」私たちの恐れの中、たとえ家に閉じこもっても取り除くことのできないおそれの中で、主は私たちの理解を超えた平安で、私たちの心と思いを守ってください。

1C 平和の君

ユダヤ人は、ヘブル語でこれを「シャローム」と言います。今でも挨拶する時は、ユダヤ人はシャロームと互いにあいさつします。平和、秩序、繁栄など、いろいろな意味があります。ここで大事なのは、平和は状態というよりも、関係なのだということです。どんなに平穏な環境が与えられようとも、私たちの心は落ち着くことはないでしょう。けれども、深い信頼を寄せる人が横にいれば、どんなに危険に見えるところでも、安心できるのではないのでしょうか。聖書は一貫して、平和また平安とは、神との関係の中で与えられます。「イザ 26:3 志の堅固な者を、あなたは全き平安のうちに守られます。その人があなたに信頼しているからです。」そして、その平安をもって世界を支配される方が来られる、キリストが来られることをイザヤは、「平和の君(9:6)」と呼びました。

イエス様はかつて、水の上を歩かれたことがあります。風が強くて嵐のようになっていたところで、弟子たちが舟でこいでいた時、夜にイエス様は水の上を歩かれました。この方を見た弟子たちは恐れましたが、「わたしだ。恐れることはない。(6:20)」と言われます。わたしだ、というだけで、それで恐れが消え去るのです。平和の君、イエスです。主は、ご自身が十字架に付けられる前の夜に言われました。「16:33 これらのことをあなたがたに話したのは、あなたがたがわたしにあって平安を得るためです。世にあっては苦難があります。しかし、勇気を出しなさい。わたしはすでに

世に勝ちました。」苦難はつきものです、しかしイエス様は世に打ち勝ち、死者の中からよみがえられました。この方が平安をくださいます。そして、主がここにおられるというだけで、弟子たちに平和が広がりました。

2C 和解の血潮

「20 こう言って、イエスは手と脇腹を彼らに示された。」主が下さる平安がなぜ、それほどまでに堅固なものなのか、それはこの方の手と脇腹に良く表れています。それは、釘が刺された手、槍が刺された脇腹です。「コロ 1:20 その十字架の血によって平和をもたらし、御子によって、御子のために万物を和解させること、すなわち、地にあるものも天にあるものも、御子によって和解させることを良しとしてくださったからです。」この方が血を流してくださいました。それによって平和が与えられ、和解が与えられたとあります。

神は自然と動物、また人を、秩序をもって造られました。ところが、人が神に逆らって罪を犯したので、それで人と神、自然と神との調和が乱れました。神に似た者に造られたはずの人は、そうではない独りよがりな生活を送るようになり、自然には災害が入ってきました。病や疫病もその一つです。しかし、神が人となって肉体をもってこの世に来てくださったのです。この方がキリストです。そしてその肉体において、人が反抗しているその罪を、ローマの処刑台である十字架によって身代わりに受けてくださったのです。身代わりの死によって、その流された血潮によって、私たちの罪は清められ、取り除かれ、自分は神に受け入れられた者となります。神との間にあった確執が取り除かれたのです。

私がクリスチャンになって、リストカットをする若い女の子たちのことを思って、「イエス様を知っていさえすれば」と思うことがよくあります。身代わりに釘を刺されて、鞭うたれて血を流してくださったのです。罪から来る傷を受けてくださったのです。こういう私も、高校生の際に自傷行為がありました。自分の良心の咎めから自分を罰したいという思いを、イエス様が身代わりになって受けてくださったのです。

イエス様は、復活をされたからだにおいても、それでもこの傷だけは負っていました。それは、いつまでも、「あなたの罪は赦されたからね」と教えて下さるためです！天におられる主の姿が、黙示録 5 章にあります。「屠られた姿で子羊が立っている(5:6)」とあります。そして永遠の都、天のエルサレムでは、やはり神と子羊の御座があり、永遠にイエス様はその傷を負って支配されるのです！私たちに対するイエス様の愛は永遠なのです。いつまでも、いつまでも、私たちの罪が赦されたことを、復活の後にも残っている身体によってお見せになっているのです。

3B 奪われない喜び

「弟子たちは主を見て喜んだ。」うれしいですね、彼らはその激しい傷跡を見ているのに、なんと

そこに生きておられるイエス様を見て、悲しみがそのまま、消えていくことのない喜びになりました。私たちは復活信仰を持っています。復活するためには、死んでいることが前提です。つまり、私たちは死をまず取らないといけないということです。その死とは、自分が罪人であることを認めることです。そして死んで、死後に裁きを受けるべき存在であることを認めることです。弟子たちはまさに、その死を経験しました。イエス様に最後まで従う、命を捨てても従うと言ったのに、イエス様を捕える人々が来たら一斉に逃げたのです。ペテロは途中までついていきましたが、三度、イエスのことを知らないと言ったのです。どんな悲しみでしょうか！

しかし、イエス様はその悲しみを知っている人々だからこそ、その後の喜びは取り去られることのないかけがえのないものになります。主は、前もってこう言われました。「ヨハ 16:20-22 まことに、まことに、あなたがたに言います。あなたがたは泣き、嘆き悲しむが、世は喜びます。あなたがたは悲しみます。しかし、あなたがたの悲しみは喜びに変わります。女は子を産むとき、苦しみます。自分の時が来たからです。しかし、子を産んでしまうと、一人の人が世に生まれた喜びのために、その激しい痛みをもう覚えていません。あなたがたも今は悲しんでいます。しかし、わたしは再びあなたがたに会います。そして、あなたがたの心は喜びに満たされます。その喜びをあなたがたから奪い去る者はありません。」

3A 平和の福音の使者 21

21 イエスは再び彼らに言われた。「平安があなたがたにあるように。父がわたしを遣わされたように、わたしもあなたがたを遣わします。」

再びイエス様は、平安があることを語られました。先ほどの平安は、主が私たちの罪のために身代わりに傷を負ってくださったところにある平安です。和解ができたところの平安です。ここでの平安は、父なる神の御心をイエス様が行われたように、私たちがイエス様の御心の中にあることによって、平安に守られます。遣わす、ということばですが、これはイエス様が行きなさいと言われるところに行くことです。

4A 聖霊の吹きかけ 22-23

そして、そのために主は私たちに聖霊をくださいます。

1B 神の命の息吹 22

22 こう言ってから、彼らに息を吹きかけて言われた。「聖霊を受けなさい。」

聖書において、人がどのように造られたかが書かれています。「創 2:7 神である【主】は、その大地のちりで人を形造り、その鼻にいのちの息を吹き込まれた。それで人は生きるものとなった。」ヘブル語では、息も、霊も、同じ言葉が使われています。神が息を吹きかけて、人は生きるものとな

りました。人が本当に生きているというのは、自分を造り、自分に命を与えられた方に立ち返ることです。ですから、神は罪を赦し、そしてご自分の聖なる霊を、イエスを信じる者に与えられるのです。これによって、新しく造られます。神の子どもになります。

2B 罪の赦しの権威 23

23 あなたがたがだれかの罪を赦すなら、その人の罪は赦されます。赦さずに残すなら、そのまま残ります。」

聖霊を受け、そしてイエス様が父なる神から権威が与えられたように、イエス様に遣わされる者たちも、その権威が与えられます。しかし、ここで大事なものは、イエス様が既に赦した人々を、そのまま「赦されました」と宣言することです。教会は、聖書にある権威、イエス様にある権威をもって赦されました！と宣言できるのです！

今、皆さんの中で自分のあり方、自分自身で生きてきたこと、神に背を向けてきたことを悔いて、立ち返るならば、またイエス様が自分の罪のために血を流し、よみがえってくださった真理を心から受け入れるならば、そして、この方を主として生きることを告白するならば、私もこの場で、はっきりと、「あなたの罪は赦されました」と宣言することができます。